【米田主宰の俳句】

冬青空

米田規子

いっせいに紅葉が散って今朝のゆめ

初しぐれ鋭角に鳥横切って

人と人のあいだを詰める十二月

パトリック来て独逸語交じる冬の暮

止めようのなき時の速さを鵙高音

自由とはてくてくてくと冬青空

冬萌や野球少年輪になって

とつぜんの膝の不機嫌年つまる

薬膳カレー胃の腑にしみて冬景色

短日や行きも帰りも向かい風